

B-22 材質の相違による中細毛糸 Gauge についての考察

東北女子大 上田百合子

目的 中細毛糸は上衣から下衣に至るまでメリヤス編による製品の用途が非常に広範囲にわたっている。従って編物加工上、特に重要なことはデザイン、用途および材質の違いによるゲージ調節が必要である。ゲージは糸の太さ、編み方、その他の諸条件によって定まるが、このゲージ調節の比率がくずれると寸法に狂いが生じたり、型くずれの原因となるので、これらを考慮し、ゲージの違いによる保温量、伸縮率、剛軟度、ひずみ率を測定したのでその結果を報告する。

方法 ウール100%、ウール40%、アクリル60%の混紡、アクリル100%、ナイロン100%の中細毛糸を試料とし、編物機械のキャリジ目盛を4, 7, 10, に固定させ、これら4種の異った材質試料を疎、中、細の3種を5枚ずつ作成し、人工気工室内で保温量を測定し、電気洗濯機による伸縮率の測定と、日本工業規格JIS L 1002の毛糸試験方法に基づいて剛軟度、弾性率について測定した。

結果 保温量はゲージの違いにより1%の水準で有意差が検定され、細より疎になる程保温量が増加した。また材質と温度間においても1%の水準で交互作用が認められた。伸縮率は、ゲージ間において有意差は認められず、むしろ材質と洗濯回数間において1%の有意差が検定された。剛軟度はアクリル、ナイロンの材質においてゲージの違いによる差が顕著で、ウールは洗濯回数が増す程顕著であった。ウールとアクリルの混紡は、ゲージ間においてあまり差が認められなかった。